

50年先を見据え、



2016年度の振り返り

2016年度の連結売上高は、国内外自動車メーカーへの売上は増加したものの、円高の影響により1兆7,153億円となり、前年度比1.4%減となりました。一方、営業利益は、原価低減活動の効果などにより、最終利益を確保することができました。これもひとえに矢崎グループをご支援くださるステークホルダーの皆様のおかげと、心から御礼申し上げます。

2016年度は、矢崎グループを取り巻く激しい環境変化をいち早くとらえ、お客様の声に確実かつ柔軟に対応していくため、まずは足元固めとして積極的な生産拡大に取り組みました。メキシコに新拠点を1カ所開設したほか、ニカラグアに2カ所、ベトナム、エルサルバドル、メキシコ、モロッコ、ルーマニアに各1カ所の合計7拠点において拡張・再構築を行いました。

一方で、将来を見据えた取り組みにも注力いたしました。昨今さまざまな分野において著しい技術革新が起こり、産業構造の変化をもたらしていますが、自動車業界も例外ではありません。メーカー同士の再編や統合が加速し、環境への配慮や安全性の追求など持続可能な自動車社会に向けた取り組みが進められています。また、世界的な情報関連企業が自動運転技術開発に続々と参入し、自動車メーカーと提携するなど協業する動きを見せています。このような変化に対応するため、2016年6月には、IoTやAIなどの新技術に関する情報を収集することを目的に、アメリカのシリコンバレーに“Yazaki Innovations, Inc.”を開設しました。また、アメリカ西海岸の自動車産業に積極的な営業展開をしていこうと、アリゾナ州に事務所を開設しました。この事務所は、昨今世界で注目されるスタートアップ企業に対して、矢崎グループの自動車部品や独自技術を積極的に提案しつつ、次世代の自動車における部品

日頃より矢崎グループの活動に多大なるご支援とご協力を賜り、心から御礼申し上げます。矢崎グループは、社是「世界とともにある企業」「社会から必要とされる企業」を原点として、ものづくりを通じて社会に貢献したい、という一貫した想いで事業活動を続けてまいりました。

本レポートでは、私たちを取り巻く激しい環境変化に今後も確実に対応していくための基本となる考え方と方策についてご報告いたします。

矢崎総業株式会社 代表取締役社長

矢崎 信二

原点を忘れずに挑戦を続けます

のあり方について、ともに開発をしていくための拠点と位置づけています。イノベーションの促進を念頭に置いたこれらの取り組みは、必ず将来的に矢崎グループの大きな力になるものと期待しています。

2017年度に向けて ～ものづくり企業としての原点に立ち返る～

2017年度は、これからの50年を見据え、前年度同様「源」を社長方針とし、矢崎グループの基本を再構築します。事業の趣旨・目的を今一度見つめ直し、ものづくり企業としての原点に立ち返ります。

自動車部品事業は、生産体制・管理機能の再構築、矢崎グループの強みを活かしたお客様への積極的な提案や開発の推進、社内連携などを強化し、持続的成長に向けた真の競争力強化に取り組んでいきます。今こそ私たちが業界のなかで一歩も二歩も前に出るチャンスととらえ、引き続き挑戦を続けてまいります。

一方、生活環境機器事業は、矢崎グループの特長、強みを活かし、引き続き新エネルギーを活用したビジネスや既存事業の海外への積極的な展開に取り組み、他社と差別化した商品やビジネスモデルの開発に注力します。

これら取り組みを遂行するのは、46ヵ国619拠点、285,800名の従業員です。“One for All, All for One”の精神のもと、組織全体でより質の高いコミュニケーションを図り、一つひとつの計画や活動の趣旨・目的を共有し、従業員一丸となって、持続可能な社会の発展に貢献してまいります。

矢崎らしさを大切にしながら ガバナンスを強化

矢崎グループは、事業領域を積極的に拡大するなかで、今一度各国、各地域に則したコンプライアンスの徹

底を図ることで、ルールに則った企業活動を推進してまいります。また、自動車業界におけるIoTやAIの普及がもたらす産業構造の変化など、激しく変わる環境においては、既存の内部統制体制を柔軟に見直し、あわせて変化するリスクに適切に対応するため、グローバルでリスクマネジメントを推進することが重要になります。

私たちのDNAである矢崎らしさを追求しながら、グローバルでのガバナンスの確立、強化を進める。それが私たちの今後の大きなテーマです。

CSR Report発行への思い

矢崎グループは、ステークホルダーの皆様への情報開示、説明責任を果たすことを目的に、2002年度に「環境報告書」を、2003年度以降は「社会環境報告書」に名称変更し発行してまいりました。

昨今、ステークホルダーの皆様から矢崎グループのCSR活動に関する期待や要請をいただくことが増えてきました。これからもステークホルダーの皆様から信頼され続ける企業であるためには、今まで以上に環境性、社会性の情報開示を充実させ、さらに企業経営の基盤であるガバナンスの取り組みについても積極的に開示していくことが重要であると考え、今年度から「CSR Report」として発行することにいたしました。まだまだ足りない点があるかと存じますが、ステークホルダーの皆様の声をいただきながらCSR方針を軸に活動に取り組み、本レポートを通じて、活動の状況を開示していきたいと考えています。

今後とも一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。